

奨学生(第2期生)からのメッセージ

【早稲田大学スポーツ科学部 Hさん】

貴財団奨学生に選んでいただいたことで学業での選択肢の幅が増え、より充実した学生生活を送ることができました。大学までの通学に片道2時間半かかり、学業とアルバイトの両立に苦労していましたが、奨学生になったことで金銭面の不安がなくなり、大学でより多くのことにチャレンジできました。大学では副専攻と学芸員資格の取得を達成し、5年一貫制度での大学院への進学も叶いました。

私の専門は「子どもの舞踊鑑賞教育」です。学校や劇場で行われる鑑賞教室の実態や歴史的背景に着目して研究を進めています。学際的な研究テーマであるため、こうした「挑戦」が大きく活きました。いずれもご支援がなければ挑戦できなかったことであり、このように貴重な機会をいただいたことに大変感謝しています。

残り1年、大学院でより専門性を深め、貴財団からいただいたご恩や学んだことを将来社会に還元していけるよう、日々邁進していきます。



【名古屋大学理学部 Fさん】

私は化学の実験系の研究室で日々研究を行っていますが、実験は思い通りに進まないことが多く、試行錯誤を繰り返していると長い拘束時間を伴います。そのような中でアルバイトをしようと思うと、やりたかった実験をやらずに切り上げなくてはならないこともあるのですが、サカタ財団様からご支援をいただくことによって、アルバイトをせずとも金銭的に自立することができ、研究にとことん打ち込むことができました。

また、それによって休みの日にも時間的な余裕が生まれ、休日は所属している体育会系の部活で体を動かし、またその活動の中で新しい仲間をつくることもできました。共に汗を流した仲間は何物にも変え難い宝であり、様々な分野を専攻する仲間から多角的なものの見方を学ぶこともできました。

私は将来、身につけた化学の力で人類の幸福や地球環境問題へ貢献したいと考えています。サカタ財団様のおかげで、この夢への強い推進力を得ることができ、心より感謝申し上げます。



【岩手大学理工学部 Lさん】

私は母国にいた時、水質汚染で病気になって、大変な目に遭ったので、私みたいに水質汚染で困っている人達を助けたいのと母国にも日本のようにきれいで、安全な水を作ってあげたいです。そのため社会基盤—環境コースに進学しました。

私の家族は母しかないし、母も年をとって、あまり働けませんでした。そのため、全部の支払いは自分でアルバイトして払ってきましたが、貴財団から奨学金を頂いて、授業料や生活費に活用させて頂きました。経済面の不安を軽減できたため、より多くの時間を勉学や就職活動に充てることができました。また、色々な自分のやりたいことや新しいことも挑戦できました。そして、日本語能力試験もN1を習得できました。

これから奨学生に応募される皆様も、みんなそれぞれ自分の目標や夢を持っていると思います。ぜひ自分の夢に叶えるために、このようなご支援を頂きながら自分の目標に向かって、明るい未来を過ごしてください。



【国際基督大学教養学部 Sさん】

私は貴財団の奨学生に選んでいただいたことにより、長年の目標であった交換留学を実現させることができました。以前は学業と並行して留学のためにアルバイトをしていましたが、奨学金をいただけるようになってからは、より学業に専念することができ、その結果交換留学を実現させることができました。留学先であるデンマークでは、新しいカルチャーや価値観に触れながら刺激的な日々を過ごすことができました。奨学金を活用してビジネスコンテストに参加したり、近隣国を周り、ヨーロッパの歴史を学ぶことができました。この経験を活かして、大学卒業後は“未来にタネを蒔く人材”として、グローバルに活躍できる人になりたいと思います。末筆ではございますが、私の夢を応援し、大学生生活を実りあるものにしてくださったサカタ財団様に心より感謝を申し上げます。

【東京農業大学農学部 Uさん】

私は、大学では、大変、人に恵まれたと感じています。資格や試験の点数などは必要になったときに取ろうと思えば自分の努力次第でいつでも取れるものですが、人との出会いは、一期一会とあるようにその時しか得ることができません。サカタ財団の奨学生となったことで、その時に会った先生や友人から貴重な知見を得たり、一緒に様々な経験をしたりすることができました。自分としては、失敗も多かったのですが新しいことにチャレンジしたりできたと感じていますし、何より、どんな時も、それらを心から楽しむことができました。また、卒業時には大学からは成績優秀者として総代を務めたこともよい思い出です。

貴財団からのご支援を賜り、大学入学前には得られなかった貴重な経験をしたり、自分の内面の変化を感じることができ、充実した大学生活をおくることができました。大学で得た経験と人との出会いを生かして、社会で活躍できる人間になりたいと思います。ありがとうございました。

【早稲田大学大学院経済学研究科 Iさん】

学費のためのアルバイトの時間を減らし、学業プログラムに専念する時間を捻出したいという思いから、サカタ財団の奨学生に応募しました。当初の学業プログラムについて無事修了できただけでなく、学会発表、ジャーナル論文の執筆、ヨーロッパ短期留学などのさまざまな機会を獲得することもできました。それらの経験を通して、環境問題に対する問題意識とそれをより一層理解するための分析手法を獲得し、自分なりの意見をもって人と話し合うことができるようになったと感じています。環境問題について自分はまだまだ何もできていない存在ですが、それを解決するために現状を把握し意見を持つという一ステップを前に進めました。今後はさらに先のステップを踏めるように、社会人になりながらも自分なりに多方面から解決策を探求していきたい所存です。最初の一ステップの成長をサポートしてくださったサカタ財団には感謝の気持ちでいっぱいです。

【明治大学農学部 Tさん】

私には留学に挑戦したいという夢がありました。しかし、家族に経済的負担をかけたくないという思いから実現は難しい状況でした。そんな時に、先輩から奨学金の存在を教えていただき、応募することを決めました。奨学生として選んでいただいたことで、留学、勉学、研究や課外活動、どれも諦めることなく全力で取り組むことができました。留学資金を貯めるべく無理にアルバイトを詰める必要がなくなったため、大学の勉学に打ち込むことができ、この春、主席で卒業することができました。また、入学当初から挑戦したかった研究室にも打ち込むことができました。私が所属している研究室は大学に寝泊まりすることがあるほど活動が忙しかったのですが、そんな研究室の門を叩くことができたのも、財団から奨学金というご支援があったからです。本当にありがとうございました。この奨学金により、夢に向かって挑戦する学生が続いていくことを願っています。